



題字 萩原田 親

No. 1053

2025/9/1

# 日中友好新聞

発行所  
日本中国友好協会  
〒111-0953  
東京都中央区浜町2-2-3  
3F 5F  
TEL: 03(5561)31-46(FX)  
FAX: 03(5561)21-41  
http://www.jcf-jc.org.jp  
E-mail: jcf@jcf-jc.org  
URL: 03(5561)31-46

日中友好協会  
岡山支部  
〒705-0034  
岡山市北区下伊福  
西町1-50 民生会館1F  
TEL/FAX 0861256-1806

日中友好協会  
倉敷支部  
〒712-8031  
倉敷市扇町西通3461-45  
TEL/FAX 0861411-7806

日中友好協会岡山支部ホームページ  
<http://rizhongyouhao.iinaa.net/>  
メールアドレス  
nicchukayama@yahoo.co.jp



## 中国東北部を訪ね、日中友好を促進する旅

河井伸士

8月5日から10日迄、11名の参加で開拓団跡地を訪ねました。最初に佳木斯の柳樹河開拓団を訪ねました。ここは岡山県出身者が500名以上いました。次に林口駅から龍爪開拓団跡地の日の出部落に行きました。ここは小林軍治さんの生まれた所で何回も来ているので村の人が出向かえてくれま



真田紀子

8月5日岡山空港から上海浦東空港へ飛び、そこから国内線で長春へ飛びます。長春は現在の吉林省の省都です。満州時代は新京と呼ばれていました。直行便では2時間半ほどの距離ですが、威海経由なので4時間かかりました。

東北三省というのは、北から黒竜江省、吉林省と遼寧省です。ここは以前日本が植民地支配をしていた満州国の位置です。

養春での慰霊

6日長春では、旧神泉寮近くの公園で献花し、その近くで亡くなられた人の名前を青木先生が読み上げられて、最後に般若心経を唱えました。

もう一件、南湖側の公園の一角で献花し同じく般若心経を唱えました。

慰霊する対象の人々は、柳樹河開拓団の方々です。青木先生が作られた亡くなられた方々の名簿を見ると、ほとんどが幼い子供たちです。

午後高速鉄道で次の目的地、黒竜江省のジャムス(佳木斯)へ向かいました。位置は中国の最も東に位置しています。約4時間の長い移動でした。



長春の南湖公園で

この黒竜江省の農村ではトウモロコシ、大豆、ジャガイモを作っていますが米作も盛んです。日本全体の米の生産量は800万トン弱ですが、この省では1200万トンとれます。中国全土で食べられていますが、これでは足りません。

ソ連の1945年の参戦で非惨な逃避行と寒さの中で亡くなった人が多くいます。日本政府は中国大陸での犠牲者の遺骨の収集はしていません。それは民間人が多かったからです。訪問団は長春の2か所でお経をとなくて、くようをしてきました。

今回の訪問で初めて中国に来た人が3名いました。現地で開拓団の実体を見聞きしたことは中国を理解する上でよかったのではないかと思います。



亡くなられた方々の名前を読み上げる青木先生







右の写真は佳木斯を流れる松花江で朝の散歩をしたときに撮ったものです。

# 佳木斯での慰霊

7日、今日はマイクロバスで柳樹河開拓団跡を訪ねます。豊楽鎮駅がありました。この駅の南北両側に集落があったようです。駅の近くで河に橋をかけ替える工事をしていました。工事現場の向こうに古い橋が見えます。そこへ通してほしいと頼みましたが、危険なので無理だと断られました。仕方ないので、迂回して河の上流部から川床を歩いて橋に向かうことにしました。後で聞いたところでは、例年なら河には水があつて、歩いていくことはできないそうです。今年は異常な渇水だそうです。

川床を歩いて15分ぐらい行くと、先ほどの工事現場の反対側につきました。河の両岸はすべてトウモロコシ畑です。トウモロコシの丈は2メートル近くあります。古いレンガ造りの橋の橋脚が見えていますが、ここが旧岡山橋ではないかというところで、献花とお経をあげました。



# 竜操開拓団跡地

8日、佳木斯の南、牡丹江市との間に位置する林口県にあった竜操開拓団跡地を訪問し、かつての日本人開拓団の家が一部残っている地域を散策しました。ここで生まれた小林軍治さんの写真を持って記念写真を撮りました。

バスには今ここで暮らしている住民の代表の方たちが乗ってこられ、一緒にホテルで交流会を開くことになっていましたが、

ホテルのレストランが営業してなくて、別のレストランで開催しました。



言葉は通じなくても、通訳は2人(添乗員の西上さんと、全線ガイドの劉さん)でなんとかなります。私たちのテーブルでは、スマホの画面を見せて孫自慢が始まり、手作りの酒(白酒)を乾杯と言いながら、何度も飲み干す酒豪がいました。中国では普通にいます。ですが、私たち訪問団では河井さんだけのようです。(後で聞くと、白酒とビールを交互に飲むとアルコールが中和されるとのことでした。白酒は50度、ビールは3.3度、なるほどですね。)

カラオケの設備がないので、のど自慢ができませんが、そこはIT専門の先生がいて、スマホで歌詞を見ながら音楽を流し、歌うことができるという芸当をみせていただきました。青

木先生の北国の春を皮切りに、日本人は何人か歌いましたが、中国の方の歌を聴くことはできませんでした。

# 哈爾濱(ハルビン)

9日、林口南駅から高速鉄道で哈爾濱駅へ向かいます。哈爾濱は黒竜江省の省都です。駅からバスで中央大街、聖ソフィア大聖堂近くへ連れていってもらい、この旅で初めて観光旅行のような気分になりました。中国の若い人たちが、今流行りのコスプレをしていました。女性は王女様のようなドレスを着ている人がたくさんいます。

昼食は自由でしたので、私たちは哈爾濱のガイドさんを入れて4人で、ドイツ料理の店に行きました。ビールとソーセージが美味しかったです。

その日の内に上海へ飛行機で移動しました。



河井 飼田 真